

「超上流工程における要求分析への科学的アプローチ」研究会

第3回勉強会のご案内

2015年9月15日

情報システム学会同上研究会発

1. 日時：2015年10月5日（月）午後2時～午後5時

2. 場所：在日本韓国 YMCA アジア青少年センター

3階「302会議室」

東京都千代田区猿樂町 2-5-5

[TEL:03-3233-0611](tel:03-3233-0611)

ご注意！ いつものプライド社会議室とは異なります！

■アクセス

JR 水道橋駅徒歩6分、御茶ノ水駅徒歩9分

地下鉄神保町駅徒歩7分

<http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/map1.htm>

3. 発表

第3回は、「情報資源管理」思想に引き寄せて、2名の方による発表となります。

(1) 中西昌武氏（名古屋経済大学）

タイトル「要求分析と情報資源管理 ～高嶺の花の時代から実践の時代へ～」

いまIRMでネット検索してもInformation Resource Management（情報資源管理）という言葉は上位に出てこないが、一昔前は、専門誌で持て囃される希望のキーワードのひとつだった。上流工程で見出された要求各要素をリポジトリDBに登録すれば、ユーザの求める「情報」がいつでも取り出せるシステムが構築できるようになる。そんな有望な管理思想であると受け止められた。だが、実際に挑戦してみると非常な困難を伴うものだったため、それは高嶺の花とも呼ばれ、そのうち言葉も忘れられていった。

だが、本当にただの夢想だったのであろうか。ヘテロなIT環境で、マッシュアップなモノづくりが進む今日であるからこそ、実践レベルで役立つ情報資源管理アプローチが存在するのではなかろうか。中西は長年この問題について考え続けてきたが、到達したのがパス步行行列によるフォーム生成原理であった。今回は、こうした歴史に光を当てた議論を行う。

(2) 西野嘉之氏（メディネットグローバル株式会社 代表取締役）

タイトル「エクセルを有効活用した情報資源管理アプローチによるヘテロな実装データの統合管理」

オフィスの各部署のIT化は、部署単位でのきままなDB化を促したが、それは企業統括レベルでのデータ管理の及ばないところでの出来事だった。やがて企業が各部署に蓄えられたデータを横串に活用しようとしたときに問題となって露見した。信頼性の高いデータを有効かつ効率的に活用するには障壁が大きかった。ベテランSEには既視感があるが、これは現在の話である。西野は、これに対し、エクセルを有効活用した情報資源管理アプローチによるヘテロな実装データの統合管理を編み出して、問題解決に当たっている。今回は、その一端を紹介する。

参加費：無料

★研究会の後、有志により懇親会を催します（費用は実費）。

研究会の参加希望の方は以下のメールアドレスにメールをください。

nakanishi-m@nagoya-ku.ac.jp 中西昌武（名古屋経済大学）宛て

以上